

成果と課題、今後の対応

1 成果

本研究のテーマでもある「中1ギャップの解消」について、小学校6年生と中学校1年生を対象としたアンケート調査を5月、11月の2度に分けて行った。その結果、中学校進学へ何らかの期待を持っている児童が8割近くいる。5月の時点では、中学校進学に対してほぼ半数の児童が不安に感じているが、11月実施のアンケート結果では不安を感じなくなった児童が増加している。乗り入れ授業により児童の中学校生活や中学校の教師に対するイメージを持つことができたことや、児童生徒のアンケートから、児童生徒の交流等の小中一貫取り組みの成果の現れが見られる。また、中学校に期待していることについては、新しい友達や部活動への期待度が高い。特に部活動については、昨年度から継続して部活動見学を取り組んできた結果の現れだと考える。

- ① 各学年の発達段階に応じた系統性のある単元配列を理解することができ、中学校へのつなぎを共有することができた。
- ② 不登校や問題傾向のある児童生徒の現状把握及び指導の手立てを共通確認することにより、小と中職員の連帯意識の高揚と指導の深化を図ることができた。
- ③ 児童アンケートの結果より、児童生徒の相互交流等で、中1ギャップ解消に繋げることができた。
- ④ 授業始めと終わりのあいさつの徹底と発表の仕方など学習規律について共通確認することで、授業に集中して取り組む態度と学習指導の工夫改善を図ることができた。
- ⑤ 各教科で意欲的に創意工夫してノートをまとめ、意識して自分の考えや友だちの考えを書くようになった。
- ⑥ 中学教諭の専門性を生かしながらの授業は、子どもの興味関心を高め、中1ギャップの解消へ向けて、1年生の不登校生徒の減少に効果があった。

2 課題

アンケート結果より、減少したとはいえ、依然として6割近くの児童が不安を抱えており、今後とも実態を踏まえた取り組みが必要になってくる。さらに、不安に感じていることが、中学校生活全般から部活動や学習、進路など個人に関わることに変化してきていることから、中学校入学後における細かな指導が求められている。

- ① 3校の児童生徒の実態や、学校を取り巻く保護者や地域の特色が異なり、学校行事、地域行事の時期や内容が学校によっても違うため、扱う基本単元やプログラムの調整が難しい。
- ② 3校の担当で役割についてしっかり確認することが計画を実施する上でとても重要である。そのため、事前の話し合いの時間を十分に確保することが課題である。
- ③ 小学校生徒指導委員会への参加及び定期的な部長会の実施が課題である。

3 今後の対応

- ① 学習規律については、全職員で共通して実践が行われているか確認しながら進めていく必要がある。更に、発表の仕方やノート指導の工夫などについては共通実践を通して、検証しながら、学習規律の定着を図っていきたい。
- ② ノート指導を通して、児童生徒にうまく書かせるようにするには、我々教師の「板書」技術などを高める必要がある。そういう技術を高めるような研修を計画していく。
- ③ 小中の学習内容の系統性を踏まえた授業展開を行う。
- ④ お互いの立場がちがうので、大きな目標のもと、共に同じ内容で取り組むものと、子どもの成長に合わせて形を変えて取り組むものを理解することが必要である。
- ⑤ 部会で決定した方針や内容を全職員に伝達するための手段を考える。また、各学校での取り組みがタイムリーに伝えられる体制を整える。